



平成23年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月9日

上場会社名 株式会社 京都ホテル 上場取引所 大
 コード番号 9723 URL <http://www.kyotohotel.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平岩 孝一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 柳瀬 光義 (TEL) 075 (211) 5111
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第3四半期の連結業績 (平成23年1月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第3四半期	6,725	△3.3	27	△86.9	△312	-	△254	-
22年12月期第3四半期	6,955	4.4	208	47.3	△151	-	△102	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年12月期第3四半期	△24.77	-
22年12月期第3四半期	△9.96	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年12月期第3四半期	19,798	1,696	8.6	164.99
22年12月期	20,343	1,963	9.7	190.94

(参考) 自己資本 23年12月期第3四半期 1,696百万円 22年12月期 1,963百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年12月期	-	-	-	3.00	3.00
23年12月期	-	-	-	-	-
23年12月期(予想)	-	-	-	3.00	3.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年12月期の連結業績予想 (平成23年1月1日～平成23年12月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,723	△1.9	482	△25.7	46	△75.8	△50	-	△4.81

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 5「その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 有
新規 一社 ()、除外 1社 (一般社団法人おいけインベストメント)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

- ② ①以外の変更 : 有

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年12月期 3Q	10,338,000株	22年12月期	10,338,000株
23年12月期 3Q	57,520株	22年12月期	56,477株
23年12月期 3Q	10,281,042株	22年12月期 3Q	10,282,601株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を完了していますが、この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P. 4「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災や原子力発電所事故による経済活動の停滞から徐々に回復に向けた動きが見られましたが、一層の円高進行等の影響もあり、先行きについては不透明な状況が継続いたしました。

京都のホテル業界におきましては、国内観光客は持ち直してきておりますが、外国人観光客の入込みは回復傾向こそみられますものの、前年比較では依然として大きく下回っております。

当社ではこのような環境を踏まえ、創業123年記念イベント開催やレストランの特別メニューの開発・提供に注力し、また、8月には京都府立医科大学附属病院内に京都ホテルオークラ直営のレストラン「オリゾンテ」をオープンいたしました。一方、設備面においても昨年来進めているからすま京都ホテルの改装工事をさらに進め、京都らしい和のテイスト、意匠を施したホテルとしての評価を高めるよう努めています。またレストラン内喫煙ブースを増設し、分煙化に配慮した快適な空間を提供することに注力しています。

こうしたことの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,725,198千円（前年同期比3.3%減）、営業利益は27,335千円（前年同期比86.9%減）となりました。

ホテル事業の部門別の営業概況は次のとおりです。

宿泊部門

京都ホテルオークラは、震災後の低迷期から国内エージェント団体・個人旅行、インターネット予約が回復基調に転じていますが、外国人旅行の個人に関しては回復傾向にあるものの、利用水準は低く、団体の観光旅行催行率は低調のままであり、依然として震災や円高の影響が継続しております。結果としましては平均稼働率が前年比5.4%減の77.7%、室料収入は前年同期比89,037千円減となりました。

からすま京都ホテルは、改装に伴う休業に加え、震災の影響による外国人旅行客の減少、更に国内エージェント経由の個人客利用も伸び悩み、前年同期比58,878千円減となりました。

この結果、売上高は1,974,801千円（前年同期比8.7%減）となりました。

宴会部門

京都ホテルオークラは、婚礼宴会で低料金プランが顧客のニーズを捉え、件数および人数は前年を上回りましたが、婚礼1件あたりの単価が減少することとなり、売上高は前年同期比10,472千円減となりました。一般宴会におきましては、震災の影響によるマイナス分を6月以降で取戻しつつありますが、件数の減少がなお続き、売上高は前年同期比では13,067千円減となりました。

からすま京都ホテルは、ロビー改装に伴う休業により一般宴会の件数が減少し、加えて宿泊客の減少に伴う朝食売上の伸び悩みもあり、特設会場での常設バイキング営業の実施やホテル主催イベントなどで売上増を図りましたが、前年同期比8,574千円減となりました。

この結果、売上高は2,274,200千円（前年同期比1.4%減）となりました。

レストラン部門

京都ホテルオークラは、テラスレストラン「ベルカント」のランチ企画およびフェア企画により入客が増加し、堅調に推移しました。また、焼きたてパン「パネッテリアオークラ」、京野菜「了以」は改装の効果が継続しており売上増に繋がりました。もっとも、震災以降の海外観光客の減少や前年販売好調であった「食べる辣油」の伸び悩みもあり、売上高は前年同期比106,670千円減となりました。

からすま京都ホテルは、中国料理「桃李」、テイクアウトショップ「レックコート」が順調に推移しており、加えて本年4月に開業したお食事処「入舟」のオープンに伴い、売上・入客共に前年を上回り、前年同期比61,842千円増となりました。

この結果、売上高は1,891,785千円（前年同期比2.3%減）となりました。

その他部門

その他部門の売上高は584,410千円（前年同期比6.3%増）となりました。

前年同期と比較して増加している主な要因は、京都ホテルオークラ別邸京料理「栗田山荘」におきましてランチメニューの「山荘弁当」などが好調に推移したことのほか、本年8月に京都府立医科大学附属病院内にレストラン「オリゾンテ」をオープンしたことなどによるものです。

部門別の売上高および構成比等は、以下のとおりです。

区分	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)		前年同期比 (%)
	金額(千円)	構成比(%)	
宿泊部門	1,974,801	29.4	△8.7
宴会部門	2,274,200	33.8	△1.4
レストラン部門	1,891,785	28.1	△2.3
その他部門	584,410	8.7	6.3
合計	6,725,198	100.0	△3.3

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債および純資産に関する分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ545,060千円減少し、19,798,430千円となりました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ278,090千円減少し、18,102,234千円となりました。

また、純資産は前連結会計年度末に比べ266,969千円減少し、1,696,195千円となり、自己資本比率は8.6%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、有形固定資産の取得による支出などにより、前連結会計年度末に比べ657,874千円減少し、当第3四半期連結会計期間末には446,198千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果減少した資金は193,917千円（前第3四半期連結累計期間は535,669千円の増加）となりました。これは主に減価償却費606,504千円あったものの、利息の支払い382,701千円、税金等調整前四半期純損失384,339千円などがあったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は360,066千円（前第3四半期連結累計期間比183,607千円の支出の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得358,722千円などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は103,891千円（前第3四半期連結累計期間比479,834千円の支出の減少）となりました。これは主に長期借入金の借入れ14,100,000千円などがあったものの、長期借入金の返済13,830,820千円、短期借入金の減少100,000千円などによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年12月期の通期連結業績予想につきましては、前回(平成23年8月12日)に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、今後の経済状況や旅行客等の動向情報を収集した上で、通期の連結業績見込みについて見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

平成23年6月1日付で有限会社おいけプロパティは当社に吸収合併されたことに伴い消滅し、また平成23年7月16日付で一般社団法人おいけインベストメントが清算終了に伴い消滅したため、当第3四半期連結会計期間末において連結子会社は存在しません。

しかし、当第3四半期連結累計期間においては上記の重要な連結子会社が存在していたため、四半期連結財務諸表を作成しております。これに伴い、当第3四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表は当社の四半期個別貸借対照表と同一のものを記載しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

② 重要なヘッジ会計の適用

第1四半期連結会計期間より、借入金のうちシンジケートローン契約の一部について、金利変動のヘッジ手段として金利スワップ取引を採用しております。

また、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

当社グループは借入金利の変動リスクを回避し効率的に管理する手段として金利スワップ取引を採用しており、金利の変動が損益に与える影響を軽減することを目的としております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	446,198	1,104,073
売掛金	360,309	477,020
原材料及び貯蔵品	68,926	88,432
繰延税金資産	179,954	39,852
その他	331,047	46,082
貸倒引当金	△320	△1,698
流動資産合計	1,386,116	1,753,762
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,595,535	12,857,689
機械装置及び運搬具（純額）	50,353	43,295
工具、器具及び備品（純額）	233,601	213,596
土地	5,049,750	5,049,750
リース資産（純額）	58,047	74,160
有形固定資産合計	17,987,287	18,238,491
無形固定資産		
ソフトウェア	12,781	15,105
リース資産	69,024	91,211
その他	4,429	4,429
無形固定資産合計	86,235	110,747
投資その他の資産		
投資有価証券	120,647	128,957
繰延税金資産	29,398	49,308
その他	196,098	70,325
貸倒引当金	△7,353	△8,102
投資その他の資産合計	338,791	240,489
固定資産合計	18,412,313	18,589,728
資産合計	19,798,430	20,343,491

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	160,097	245,815
短期借入金	1,997,000	2,097,000
1年内返済予定の長期借入金	780,000	13,455,820
リース債務	54,298	53,438
未払金	439,053	658,772
未払法人税等	6,506	76,269
賞与引当金	74,490	—
その他	458,980	458,676
流動負債合計	3,970,426	17,045,792
固定負債		
長期借入金	12,945,000	—
リース債務	83,060	123,892
退職給付引当金	65,171	79,170
役員退職慰労引当金	39,534	32,301
長期預り保証金	999,042	1,094,168
その他	—	5,000
固定負債合計	14,131,807	1,334,532
負債合計	18,102,234	18,380,325
純資産の部		
株主資本		
資本金	950,000	950,000
資本剰余金	209,363	209,363
利益剰余金	562,593	848,109
自己株式	△24,546	△24,142
株主資本合計	1,697,410	1,983,330
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,214	△20,164
評価・換算差額等合計	△1,214	△20,164
純資産合計	1,696,195	1,963,165
負債純資産合計	19,798,430	20,343,491

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
売上高	6,955,563	6,725,198
売上原価	1,444,241	1,415,975
売上総利益	5,511,321	5,309,223
販売費及び一般管理費	5,302,856	5,281,887
営業利益	208,465	27,335
営業外収益		
受取利息	291	115
受取配当金	1,480	1,553
受取手数料	6,341	4,270
補助金収入	—	4,954
その他	5,998	5,002
営業外収益合計	14,111	15,895
営業外費用		
支払利息	339,328	317,993
その他	34,633	37,601
営業外費用合計	373,962	355,595
経常損失(△)	△151,384	△312,364
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,305	1,378
特別利益合計	1,305	1,378
特別損失		
固定資産除却損	10,949	33,150
投資有価証券評価損	—	40,202
特別損失合計	10,949	73,353
税金等調整前四半期純損失(△)	△161,028	△384,339
法人税、住民税及び事業税	3,080	3,466
法人税等調整額	△61,744	△133,134
法人税等合計	△58,663	△129,667
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△254,671
四半期純損失(△)	△102,365	△254,671

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△161,028	△384,339
減価償却費	574,550	606,504
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,793	△2,126
賞与引当金の増減額(△は減少)	72,300	74,490
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△11,282	△13,998
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△4,881	7,232
受取利息及び受取配当金	△1,772	△1,669
支払利息	339,328	317,993
投資有価証券評価損益(△は益)	—	40,202
固定資産除却損	10,949	33,150
売上債権の増減額(△は増加)	115,042	117,459
たな卸資産の増減額(△は増加)	42,497	19,506
仕入債務の増減額(△は減少)	△91,043	△85,718
未払金の増減額(△は減少)	△71,995	△154,918
その他	△1,900	△98,803
小計	806,970	474,966
利息及び配当金の受取額	1,772	1,669
利息の支払額	△240,715	△382,701
法人税等の支払額	△32,358	△287,851
営業活動によるキャッシュ・フロー	535,669	△193,917
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△167,404	△358,722
無形固定資産の取得による支出	△9,054	△1,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	△176,458	△360,066
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	150,000	△100,000
長期借入れによる収入	—	14,100,000
長期借入金の返済による支出	△667,000	△13,830,820
リース債務の返済による支出	△36,328	△39,971
自己株式の取得による支出	△25	△403
配当金の支払額	△30,372	△30,695
その他	—	△202,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△583,725	△103,891
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△224,514	△657,874
現金及び現金同等物の期首残高	1,181,248	1,104,073
現金及び現金同等物の四半期末残高	956,733	446,198

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

当社グループは、内外顧客の宿泊・料理飲食・宴会等を中心とするホテル経営およびホテル付随業務を事業内容としております。経営資源の配分の決定および業績評価は当社グループ全体で行っていること等から判断して、事業セグメントが単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。